

## 【資料5 2】 指導案『コミュニケーション』

平成16年度広島市立舟入高等学校SELHi 文部科学省実地調査研究授業学習指導案

教 諭 西 巖 弘  
外国語指導助手 アイヴィー・レアング

1. 期 日 9月9日(木)
2. 時 間 4限「コミュニケーション」
3. 対 象 3年10組(普通科・国際コミュニケーションコース) 20名
4. 単 元 デイバート活動
5. 単元設定の意図

### (1) 生徒観

今回の授業は、国際コミュニケーションコース(以下、国際コース)の3年生、42名のうち20名を対象とした少人数授業である。国際コースの生徒は、英語に強い関心を持っており、現在、クラスの42名のうち26名が、実用英語技能検定の2級を取得している。また、本コースの専門科目では授業が英語で行われることや、「オーストラリアへの修学旅行」など授業以外の英語関連の行事が充実していることから、生徒は日常的な場面で英語を使用することには慣れ親しんでいる。

一方、本年度1学期には「スピーチ」と「プレゼンテーション」を行い、「英語の第二公用語論」や「結婚スタイルの変化」などの題材を扱ったが、これらは論理性や説得力が求められる題材であり、生徒は日常的な題材とのギャップを感じたようである。したがって、現代の社会的な問題点について話し合うなど、テーマや話し合いの方法について基本的な知識が求められる活動については、さらに段階を踏んだ指導が必要と考えられる。

### (2) 教材観

「デイバート」に必要なのは、英語での表現力と思考力・判断力を総合した能力であり、これは本校での学習過程の全体を通じて生徒に身につけさせたい到達目標の一つである。2年次には、相手の意見に素早く反応する表現力を目標として「簡易デイバート」を行った。3年次の1学期には、説得力のある内容を述べることを目標にして、「スピーチ」と「プレゼンテーション」を行った。今回の単元である「デイバート」は、「スピーチ」や「プレゼンテーション」が一方のコミュニケーションの中で論を構築するという活動であるのに対して、双方向的なコミュニケーションの中で、「聞くこと」における思考力・判断力と、「話すこと」における表現力の2つの能力を駆使する活動である。生徒が「討論者」、「審判」、「観衆」の役割を適切に果たすことで、思考力・表現力を身につけるとともに、次の単元である「ディスカッション」での活発な議論へと繋がるよう留意して指導したい。

### (3) 指導観

生徒が「デイバート」のやり方について知識を得ることと、それを実践することとの間には大きな隔たりがあると考えられる。したがって、デイバートの基礎的段階を設定し、審判として内容を判断しながら論拠を「聞くこと」の練習と、討論者として評価の観点を意識しながら論拠を「話すこと」の練習を、それぞれ行う。デイバートの勝敗を左右する評価の観点は、(a)「論拠の数」、(b)「論拠の重み」、(c)「論拠の性質」の3段階を設定する。段階ごとに論拠と評価の関係についてグループで話し合い、問題意識を深める。このようにデイバートの勝敗を決定する評価の規準を意識できるよう練習を工夫する。これにより、実際のデイバート試合では、審判は客観的な視点で勝敗を決定できる。

また、討論者は論拠をわかりやすくするよう努力するだけでなく、メッセージが明確に伝わるような声、表情、身振りなどの工夫を試みると期待される。さらに、観衆としても十分な関心を持って参加し、論を追うことができると予想する。最終的には、評価を意識して議論の内容に注目することで、メッセージが相手に伝わることの大切さを生徒が意識し、表現力と思考力のさらなる向上に繋がるよう学習活動を推進していきたいと考える。

6. 学習指導計画  
全9時間扱い

次	学習内容・学習活動
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>本単元の目標と活動スケジュールを知る</li> <li>ディベートの論題の立て方について考える</li> <li>ディベート及び審判の基礎練習「スポーツについて」(グループワーク) クリティカルリスニング(論拠の数を聞く) トーキングマッチ(時間内にできるだけ多くの論拠を挙げる)</li> <li>本時のまとめ(グループディスカッション) 「論拠の『数』だけで勝負が決まるのだろうか？」</li> </ul>
本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>「論拠の重み」の呈示</li> <li>ディベート及び審判の基礎練習「携帯電話について」(グループワーク) クリティカルリスニング(論拠の重みを評価する) トーキングマッチ(数と重みを意識して論拠を挙げる)</li> <li>本時のまとめ(グループディスカッション) 「重要な論拠とそうでない論拠の違いは何だろうか？」</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>「効果的な論拠」について考える</li> <li>ディベート及び審判の基礎練習「テレビの便利さについて」(グループワーク) クリティカルリスニング(論拠の内容をメモしつつ重みを評価する) トーキングマッチ(数と重みを意識して論拠を挙げる)</li> <li>本時のまとめ(グループディスカッション) 「説得力のある論拠にはどのような特徴があるだろうか？」</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディベート及び審判の練習 ジャッジシートの使い方の教示 教師の模擬ディベートを審判する</li> <li>ディベート試合の準備</li> </ul>
5 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディベートの実践 論題「殺人者は死刑を受け入れるべきだ」</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>本単元のまとめ</li> <li>レポート課題の指示</li> </ul>

7. 本時案

(1) ねらい(具体的評価規準)

「携帯電話」についての討論を聞いて、論拠の重要性を評価できる  
「携帯電話」について討論し、論拠を複数挙げることができる  
「重要な論拠の特徴は何か」について、一定の見解を示すことができる  
すべての活動に積極的に参加している

(2) 準備物

ワークシート、ディベート評価シート簡易版、カセットテープ、カセットデッキ、ストップウォッチ

(3) 学習過程

学習活動	生徒の動き	教師の支援・評価など ( は評価に関する部分)
・ 挨拶(1分)	・ 挨拶をする	挨拶をし、ワークシートを配布する
・ 「論拠の重さ」について考える (前時のおさらいと本時のねらい) 7分	<ul style="list-style-type: none"> <li>「論拠の重さ」についての説明を聞く</li> <li>論拠を評価してみる(グループワーク)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机間巡視し、行き詰まったグループがあれば助言を与える</li> <li>板書内容を評価する( )</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとに結果を板書する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「論拠の重み」を評価する基準は何かについて問題意識を持たせる</li> </ul>
・基礎練習1 クリティカルリスニング 12分	<ul style="list-style-type: none"> <li>「携帯電話」について二人が討論しているテープを聴く</li> <li>(1) 聞いた感じで勝敗を判断する</li> <li>(2) 評価シートを用いて点数化して勝敗を判断する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価シートを配布する</li> <li>テープレコーダーを操作する</li> <li>左記(1)(2)ごとに結果を挙手させる</li> <li>評価シートを回収する( )</li> </ul>
・基礎練習2 トーキングマッチ 25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>「携帯電話」について討論する。グループ(4人)で、討論者(2人)、審判(2人)の役割を交代で行う</li> <li>審判は討論の進行に応じて評価シートに記入する</li> <li>総合得点を算出する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価シートを配布する</li> <li>討論時間を計時する</li> <li>机間巡視し、質問を受ける。また励ましや助言を与える</li> <li>よい点、改善できる点を挙げる(形成的評価)</li> <li>評価シートを回収する( )</li> </ul>
・まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>「重要な論拠にはどのような特徴があるか」について考える(グループワーク)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面をディベートと特定する</li> <li>ワークシートを回収する( )</li> <li>次時の予告をする</li> </ul>